

## 基準 1. 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

### 1-1. 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されていること。

#### (1) 事実の説明(現状)

##### 1-1-① 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されているか。

本学の経営母体である学校法人石田学園の創立は明治 40(1907)年 4 月 8 日であり、学校創設にあたり、校祖石田米助翁は聖徳太子の「十七条憲法」第一条にある「和を以て貴しと為す」を建学の精神とした。

本学の初代学長(石田成夫)は相助け、相励まし合える、和気あいあいたる学風の確立を目指し、この建学の精神を引き継ぐと共に、「明德」を明らかにすることを立学の方針とし、国家社会の建設に有為な人材を育成することを教育目的とした。

その後、平成 6(1994)年に就任した 2 代目学長(石田恒夫)は、本学が地域に貢献することを使命とすることはもちろん、建学の精神を実現するため、「学生志向」を意味する「Be Student-oriented(すべては学生のために)」という表現で、新しい行動指針を打ち出した。学生を理解し、学生の立場に立って教育を考えることこそ建学の精神・立学の方針を実現することに通じるとし、「広島経済大学大学案内」「広島経済大学大学広報」『学生生活の手引』『教務ガイド』を始め、あらゆる媒体にこの行動指針を掲載し、その意図するところを説明している。

また、入学式や学位記授与式をはじめ、新年互礼会、教職員研修会、キャンパス見学会など、折りある毎に学長が「和」「明德」「Be Student-oriented(すべては学生のために)」について説明し、学内外にその理解と浸透を図っている。

#### (2) 1-1の自己評価

建学の精神・立学の方針を実現するために、「Be Student-oriented(すべては学生のために)」という行動指針を打ち出してから、既に 14 年が経過する。既に述べたように、あらゆる儀式やイベントのたびに、繰り返し建学の精神・立学の方針・行動指針の意味を説明し、名刺をはじめあらゆる媒体に視覚的にも統一して使用しているため、その浸透度は高い。

#### (3) 1-1の改善・向上方策(将来計画)

平成 20(2008)年度の新入生セミナーで、全新生に DVD「石田学園 100 年の歩み」を見せ、「大学歌」を覚えさせることで、本学の歴史を知らしめ、建学の精神や立学の方針を理解させ、大学への帰属意識を高めることにしている。平成 21(2009)年度以降の新生にも継続して実施するが、今後、「大学歌」の CD を全教職員に配布するなどあらゆる機会を捉えて理解と浸透を図りたい。

## 1-2. 大学の使命・目的が明確に定められ、かつ学内外に周知されていること。

### (1) 事実の説明（現状）

#### 1-2-① 建学の精神・大学の基本理念を踏まえた、大学の使命・目的が明確に定められているか。

昭和39(1964)年5月2日、学校法人石田学園理事会において石田成夫理事長は「同窓会、保護者会、また社会の有力な方面から、大学を設置してはとの要望が強くなってきた。本学園自体からも、毎年の卒業生千余名の大部分は大学進学希望者である。これらの卒業生を遠隔の東京、京阪地方に送る必要もあるまい。地方出身者は、地方の大学において教育・研究をほどこし、地域の経済、文化、スポーツ等の発展に寄与することが筋道ではないかと思う」と述べ、開学の準備に入ったという。

上記のように、本学の使命・目的は地域に貢献することとその人材育成であり、既述の通り、学則第1章第3条に明確に定めている。この学則に基づいて、育成しようとしている人材像を、平成17(2005)年度までは「実践的実務的人材」としていたが、これを現在は、「ゼロから立ち上げる」興動人、として更に明確にした。

#### 1-2-② 大学の使命・目的が学生及び教職員に周知されているか。

本学の教育目的は、本学が発案した「ゼロから立ち上げる」興動人の育成である。この育成すべき人材像は、下記のとおり、学生および教職員に周知が図られている。

本学には附属機関として、興動館、地域経済研究所、図書館があり、これらは地域に開かれ地域に貢献するものとして教職員に認識されている。後述の通り、興動館は興動館教育プログラムを展開する機関だが、地域との交流拠点としての役目も果たしている。

平成19(2007)年に学園創立100周年を迎え、『石田学園100周年記念誌』と初代学長の『和に生きた教育者－石田成夫伝－』ならびに「石田学園100年の歩み(DVD)」を製作した。これらには本学園の歴史、建学の精神、立学の方針、人材育成目標等が記されており、記念誌と石田成夫伝は教職員全員に配布、DVDは記念式典で上映して周知を図った。

一方、学生に対しては立学の方針等が記されている『教務ガイド』『学生生活の手引』を全員に配布し、新入生にはDVD「石田学園100年の歩み」を見せ、併せて「大学歌」を覚えさせることにした。

また、ビジョン策定研修会(教員)や中長期計画すりあわせミーティング(職員)で本学の教育目的を再確認している。

#### 1-2-③ 大学の使命・目的が学外に公表されているか。

受験生はもちろん、一般に配布される「広島経済大学大学案内」や「広島経済大学大学広報」には、大学の使命・目的が公表されている。また、ホームページの「30秒で分かる広島経済大学」というコーナーにも同様な内容が明示されている。

『石田学園100周年記念誌』は中四国の国公私立大学(69校)、広島県内の高校(141校)、県外の指定校高校(153校)などに配布した。

平成19(2007)年度の保護者会総会と同窓会総会では、DVD「石田学園100年の歩み」を上映するとともに同窓会総会に出席した卒業生に『石田学園100周年記念誌』を配布し

た。

## **(2) 1-2の自己評価**

平成 6(1994)年に発表した「Be Student-oriented (すべては学生のために)」は、本学の教育目的である「ゼロから立ち上げる」興動人を育成するための行動指針であると一貫して説明されており、教職員には十分浸透している。

現在、JR 下祇園駅に電照看板、アストラムライン本通駅に電飾大看板で本学の目的とする人材像や行動指針を告知するほか、新聞・テレビ・雑誌を通じて本学の使命・理念などを積極的に PR している。

地域貢献については、平成 19(2007)年に広島県が設立した産学官が協力する「ひろしま国際貢献ネットワーク」の委員長に本学教授が就任していることが挙げられる。さらに、興動館科目の「防災まちづくり実践講座」では、地元の被災経験者との意見交換をする授業や、「まちづくりコーディネーター養成講座」などを開講しており、積極的に地域貢献を進めている。

## **(3) 1-2の改善・向上方策（将来計画）**

大学の使命・目的について平成 20(2008)年 9 月までにホームページでより深く解説する内容に改編し、積極的に PR をする。また、建学の精神、立学の方針を具現化する本学の最大の特徴である「興動館教育プログラム」をさらに充実させるとともに、「ゼロから立ち上げる」興動人育成に関わるあらゆる教育活動の PR に努める。

### **[基準 1 の自己評価]**

建学の精神、立学の方針、それを実現するための行動指針は、パンフレットや名刺など様々な印刷物への記載や、学内催事および大学説明会（高校関係者対象）等での説明を通じて学内外に示されてきた。また、これらを踏まえた本学の使命・目的は、地域貢献と「ゼロから立ち上げる」興動人育成であると明確に定められており、同様の方法で学内外に示されている。

地域貢献という本学の使命は、地域の人材を育て、その人材を地域に多数輩出するという実績においても示されてきた。平成 20(2008)年度でみると、新入生の 72%、在学生全体では 68%が県内の高等学校出身者である。また、平成 19(2007)年度の卒業生の 56%は広島県に本社所在地のある企業に就職している。

### **[基準 1 の改善・向上方策（将来計画）]**

建学の精神、立学の方針、行動指針、本学の使命・目的について、学外および本学教職員への浸透度は高い。しかし、それに比べて学生への浸透度がさほど高くない点は改善が必要である。学園創立 100 周年を機に、正課授業で取り上げることを決め、周知に努めることとなっている。

本学の使命・目的については、今後さらなる PR を積極的に行う。